



# 森のなかま

2015年4月号

NO. 84号 (継続229号)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp>  
〒243-0014 厚木市旭町1丁目8-14・グリーン会館

発行人 久保 重明

TEL 046-280-4101・FAX 046-280-4102

## 第6回森林文化講演会 『環境共育としての南足柄山地の物語』

— 戦中・戦後の禿山を修復して育った自然林の植物と土壌など —

講師: 東海大学名誉教授 佐々木 園子氏

### < 森林文化部会 理事 高橋 修 9期 >

平成27年3月1日(日)、桜美林大学淵野辺 PFC において、恒例となった「第6回森林文化講演会」を東海大学名誉教授の佐々木園子氏をお招きし開催いたしました。

今年も雨という天候の中でしたが、78名(会員:55名、一般23名)の方のご参加をいただき、盛会のなか講演が始まりました。

講演は元素、細胞から話が始まり、生命の階層構造、生命、生態系と続き、どんな話になるのか少し身構えましたが、1980年代から南足柄地区での開発計画による造成地の遷移調査を皮切りに、地元足柄地区の開発による自然破壊と自然治癒力といえる森林遷移も、土壌、標高、開発段階の差により生育する草本類と遷移段階が異なるなど、多くの地元参加者にとって興味深い講演であったと思います。

参加者の方からは地元で活動している方の講演であり、楽しみにしてきたが大変良かったとの言葉も頂きました。

身近な地域でもわずかな環境の違いにより、出現する植物群の種類や発生過程を知ることができたことは、今後の活動に大いに参考になるのではないかと考えています。

本講演に対し、お忙しい中にもかかわらず参加いただいた方々には、心よりお礼申し上げます。



講演風景



佐々木氏 と 講演会場全景



佐々木 園子氏 プロフィール

1976年東海大学教養学部生活学科転職

現在:東海大学名誉教授

「足柄地域の暮らしと環境を考える会」代表



**鎌倉彫体験と早春の鎌倉散策**  
2月15日(日) 晴時々曇り 参加者18名(会員)

< 森林文化部員 内野ミドリ 9期 >

まず鎌倉彫の体験、最初にビデオで鎌倉彫の歴史や作品ができるまでの行程(木地、彫り、塗り)を見ました。鎌倉彫の起源は鎌倉時代で、仏具から茶道具へ、そして日常の家具や



鎌倉彫の体験

器に広がっていき、国が伝統的工芸品に指定しています。神奈川県には他に昨年体験した箱根寄木細工と小田原漆器があります。鎌倉彫の材料は、現在北海道のカツラが主に使われているそうです。二人の講師に指導を受けながら、直径18cmの勾配盆に描かれた季節の花の図案(桜、紅葉、桔梗から選んで)を彫りました。彫刻刀は1本で「葉研彫」という図案の線を両側からV字状になるように彫る手法です。彫刻刀に力が入り過ぎたり、きれいなVにならなかったり、なかなか根気のいる難しい作業でしたが予定の2時間でほぼ完成しました。本来なら漆塗りをして仕上げるのですが、かなり高価なので後日作品を持ち寄って柿渋塗りをして仕上げる予定です。

老舗「茶寮いの上」で「特製いの上弁当」で昼食



昼食は、鎌倉駅前の老舗「茶寮いの上」で「特製いの上弁当」を味わいました。3階を貸切りにしていただいたので寛げて和やかな雰囲気です話が弾みました。

午後の散策は、予定通り「小町通り～銭洗弁財天～佐助稲荷～大仏ハイキングコース～大仏～長谷寺」を歩きました。途中マンサクやウメの花に春を感じ、尾根から海を望み、古都鎌倉の風情を楽しみました。長谷寺前で解散後、長谷観音をお参りした人、お土産のショッピングを楽しんだ人、コーヒブレイクした人などそれぞれでした。長谷駅で再集合した方々と江ノ電に揺られて帰りました。

佐助稲荷へ



“やどりきの森へ行こう”  
ミツマタ&モモンガの棲む森散策  
3月22日(日)晴れ、募集参加者49名  
(取材 広報 松本)  
“5月17日(日)には  
ウツギ&動物探しもありますよ!!”

オリエンテーション と ルート説明



ミツマタ群落をかきわけるように



モモンガ?ムササビ?フクロウ? なが入っているのかな



かながわ森林インストラクターの会は『緑の募金』の支援団体としても取組んでいます。全国で5番目/NPO法人で初めて委嘱されています。

主催: 森林癒し部会・安全管理委員会

## 『安全管理に係る情報交換会』

日時: 2月28日(土)14時~16時

場所: 県民サポートセンター(横浜市神奈川区鶴屋町)



&lt; 森林癒し部会副部長 福島 正治 11期 &gt;

参加パートナーさま (五十音順)

神奈川トヨタプリウス森木会 様、 タカナシ乳業(株) 様  
 鶴岡八幡宮槐の会 様、 日揮(株) 様

2月28日(土)かながわ県民サポートセンターにおいて森林癒し部会が中心となり森林癒しを活動に取り入れている上記の企業・団体にご参加いただき開催しました。まず参加者の紹介(自己紹介)から始まり参加各社(団体)による、安全管理に対する現在の取り組み状況の紹介をしていただきました。その一つに、イベント参加者はお客様、社員及び家族、登録された会員、社員及び派遣社員等、各社により異なり、事前説明会の可否や緊急時の連絡体制(個人情報取り扱い)では若干の違いが報告されました。つぎに、当会から安全について取り組みの紹介を行いました。安全体制とルール、チェックシートの例示と活用方法、過去のヒヤリハット事例、ボランティア保険等々の報告を行いました。意見交換では各社の取り組み等を共有することが出来、有意義でした。参加者の方からも引き続きの開催要望も聞かれました。参加者の方より主催者側スタッフの、安全や技能習得の場がほしいとの要望等もありました。今回初めて、異なる企業・団体の方が集まり情報交換会を開催しましたが、各社の取り組みの紹介、悩み、要望等を聞くことが出来、次に繋がる意見もありました。安全は終わることのない課題であり、引き続き各社との連携を深め、安全なイベントの継続と各社間の懇親が発展できるようにしたいと研修会を終えて思うところです。

情報交換会の様子



日揮(株)様



鶴岡八幡宮槐の会様



タカナシ乳業(株)様



神奈川トヨタプリウス森木会様



参加インストラクター

- ・森林癒し部会: 森本⑤、若林⑦、草野⑧、時田⑩、宮下⑩、山下⑪、福島⑪
- ・安全管理委員会: 高橋⑨、滝澤⑤
- ・広報部: 松本⑪

(写真: 広報部 松本)

## 森のめぐみ シリーズ

枠組は桜の小枝です

## 第7回 天然物は合成品に比べて劣るのか？

香りの図書館 館長 谷田貝 光克 氏

古くから長い生活の中でその良さが認められ使われてきた伝統的な天然物の製品、しかしながら石油などの化石資源からの合成品にその場を遠慮がちに譲っているようにも思えます。天然物は合成品に劣るのか。そんな疑問を解決するために、石油などの化石資源を原料とした合成品と植物からの抽出成分の違いを比べてみました。

まず量の問題です。合成品は石油などの原料があれば大量生産が可能です。これに比べて抽出成分は植物に含まれている量が少ないという不利な点があります。樹木を例にとりますとわが国の樹木での材ではせいぜい3~5%、葉では数%~10%程度しか含まれていません。

次に問題になるのが生産時期です。原料が揃えばいつでも生産可能な合成品に比べて植物成分の含有量は時季的に変動しますので量的に多い時季に収穫するのが有利です。果実などは収穫時期に合わせる必要が出てきます。生産する場所では合成品の場合には工場立地条件が合えばよいのですが、植物原料の場合には新鮮さなども問題にしなければなりませんので生育場所に依存するケースが多くなります。また、森林の中にある資源の場合には原料の収集・搬出が困難な場合があります。

製品価格についてはどうでしょうか。合成品では資源さえあれば大量生産が可能で安価に作りだすことができるのに対して抽出成分の場合には少量生産なので比較的高価になります。

こうして見ると、化石資源からの合成品の方が有利のように思われますし、そのような理由で実際には市場をにぎわし、手に取りやすいのは合成品です。

そこでもう少し立ち入って考えてみましょう。製品の効果はどうでしょうか。合成品は医薬品や農薬に見られるように速効性で、効果が強いのに比べて生薬や植物由来の殺虫剤・抗菌剤などは遅行性で、効き目が弱いのが一般的です。しかしそのかわり

に副作用や残留毒性が少ないという良い点もあります。合成品が天然物よりも効果が強いのは、合成品がより効果の強い製品を目指して合成してつくられるものなので当たり前のことなのです。天然物には木ロウ、マツヤニのロジン、精油、天然色素、生薬などのように合成代替品が出現してもいまだに好まれて使われているものが少なくありません。それは天然物が肌ざわり、色合い、香り、効果などで合成品ではまねのできない良さを持ち合わせているからです。

それとなんととっても化石資源が有限で使い切ってしまったら枯渇してしまうのに比べて植物資源は再生可能なので、資源がこと欠かないように上手に循環させればいつまでも利用できることです。今やスローライフ・スローフード、そしてロハスの時代。少くも効き目は遅くても、少くも値段は高くてもいつまでも自然と共に生きられる、そんな時代にしたいものです。



ハゼノキ、モクロウ  
⇒ 蝋燭(ロウソク)

(イラスト 広報部 大塚 晴子)

## 活動短信

今回の掲載は

1月15日～2月28日です。  
寄稿頂いた中には、紙面都合  
や寄稿タイミングで次号以降  
の掲載になるものもあります。  
予めご了承下さい。



雉始雌(1/15～) 霞始雉(～2/28)  
(きじはじめてなく) (かすみはじめてたなびく)  
小寒 末侯 ～ 雨水 次侯  
(イラスト 広報 大塚)

## ◆ 相模原市立大沼小学校

(間伐体験 ⇒ 焼き杉体験に変更)

日 1月15日(木)9:30～14:30、小雨のち雪  
場 ふるさと自然体験教室(ふじの体験の森やませみ)  
参 96名(小学5年生90名、教師6名)  
スタッフ やませみ職員1名 中井様  
イ L内野⑨、佐藤⑤、富樫⑥、伊藤⑦、小野⑦、  
渡部⑦、有坂⑧、鈴木⑧、松山⑩、松本⑪

大日野原地区は、冬空の寒い朝(気温4℃)そしてそのうち雪が!!

ふじの体験の森に生徒たちがバス2台、マイクロ2台で到着。こどもたちは、事前に野外実習を間伐でなく「焼き杉工作」に変更を知らされていた。やませみ職員中井さんの説明があり、間伐材を利用した焼き杉の注目点は、杉板の年輪模様・焼き加減。次に大事なことは、竈(かまど)焚きの実習をして、竈(かまど)に火を熾(おこ)す為にマッチの使い方から、各班にインストラクターが入って活動をサポートすることになった。こどもたちにできるだけ自習させるが焚きつかず、手助けをして焚き付け、焼き加減を見守りながら、完成度を見計らって、班長と2～3人を呼び竈の後始末をこどもと一緒に進めながら、この後のこどもたちの「夕食のカレー」を美味しくできるように期待し竈の掃除を終了。

実行委員の振り返り(質疑応答)が終わり、食事会場に移動。昼食はグループ毎にインストラクターと一緒に食事。

グループミーティングでは先日の事前学習での質問があり、リーダー内野さんが準備してあった「杉・檜」の果実、種子を触れさせた。

こどもたちに花粉症の人とは声をかけたら9人中4人の手が挙がった。花粉症には、四季の旬の食べ物が免疫力を高める、食べ物は好き嫌いを言わず、バランスのよい食事をと説明をした。

まとめの会では、各班代表が発表して、終了。

(記 富樫 文衛 6期)

## ◆ 県民参加の森林づくり (広葉樹除伐)

日 1月17日(土)8:30～14:30、晴れ  
場 中郡大磯町生沢(おおいそ学園所有林)  
参 51名(大人 男性35名 女性16名)  
地元関係者 神奈川県立大磯学園:園長他  
講話 明治大学教授 倉本様  
財 内海課長、鳥海様、靱山様 看 青木様  
イ L酒井⑩、高橋③、足立④、鈴木⑦、小野⑦、  
渡部⑦、村井⑨、小笠原⑩、小川⑬

インストラクターは朝7時50分に二宮駅集合。参加者の到着を待ち二台のバスに分乗して現場である大磯学園へ向かった。

作業現場は約0.5haの広葉樹林で、径10cm未満のアラカシ、アオキ等の除伐であった。入門コースなので約1/3の方が鋸を扱うのが始めてで最初は苦戦をしていた。約2時間の作業で荒れていた叢林が見違えるほどの明るさになり、参加者の皆さんは活動の結果にかなり満足されていた。

広葉樹の除伐は針葉樹の間伐等と違い、枝の処理は短く切り、筋置き圧迫するなど作業に違いがある事を知った。

昼食後に明治大学教授による「広葉樹の管理」の話を体育館で1時間ほど受けた。最後に大磯学園の園長様から「来年もぜひお願いしたい」という嬉しいお話をいただき、帰路に着いた。

(記 小川 和恵⑬)

## ◆ きこり体験 と カレーナンづくり

日 1月18日(日)、晴れ  
場 小田原市いこいの森  
参 10名(大人5名 子供5名)  
スタッフ 小田原市森林組合 村山様  
イ 小沢⑨

好天に恵まれ小田原市森林組合の村山様の進行によりオリエンテーリング開始、インストラクターの紹介後参加者の紙芝居を使い森や間伐のお話をさせて頂きキコリ体験の森へ向かう。

途中の川を渡るところは飛び石に成っている為、子供たちの冒険心をくすぐられた様だ。

クヌギの広場で間伐用の道具を身につけ森に入る。

2時間ぐらいかけ参加者全員が鋸を使い、みんなでロープを引っ張り間伐の大変さや倒した時の爽快感を感じてくれた。間伐した材木の一部を森から下ろしコースターの作成。

各自、鋸の感触や自分で切ったコースターに紙ヤスリをかけながらそれぞれのキコリ体験を終了。

午後はナンカレーの昼食ナンを各自こねながら鉄板の上で焼けるのを待ち小田原市森林組合さんが料理して頂いたカレーを乗せキャンプ場にて楽しいナンカレーの昼食、お代わりも続々！

参加者は多いに楽しまれて帰られました。当初の参加予定人数が大幅減になってしまった事は残念でした。

(記 小沢 章男 9期)

#### ◆ 厚木市立清水小学校

##### 森林学習

日 2月6日(金) 8:15~12:45、晴れ

場 清水小学校 体育館他

参 169名(生徒164名、教師5名)

財 古舘様

イ L武者⑦、西出⑫

1月28日の打合せ(下見)で、学校側から強い要望があり、事前に「やどりき」から、水源林涵養実験装置を小学校に搬入した。森林学習の内容は、①全員で森林講話授業(体育館)、②4班に分けて流水実験(理科室)、③4班に分けて森林作業用道具解説(会議室)、④2班に分けてピオトープ説明(校庭)、⑤2班に分けて妻田薬師・大楠説明(境内)である。また時間は①~③が各30分、④と⑤が各20分で、②と③、④と⑤を同時進行で行った。

①は会編集の森林講話をスクリーンに投影してマイクを使って行ったが、やはり一方通行の講話よりも、模型を使った水源林涵養実験、チェーンソー・ヘルメット・枝打ち用ハシゴ・間伐鋸等の道具に触れながらの解説の方が、児童の興味をかき立てるように感じた。①は時間の関係でできなかったが、その他は、質問を受ける時間を取り、熱心な児童から中味のある質問もあって、有意義な授業になったと感じた。

(記 西出 健一 12期)

#### ◆ 相模原市立二本松小学校

##### (ふじの体験の森やませみ) 間伐体験

日 2月13日(金) 9:00~13:30、晴れ

場 (相模原市)大日野原地区

参 114名(生徒105名、教師6名)

イ L松山⑩、富樫⑥、伊藤⑦、小野⑦、塩谷⑦、

渡部⑦、阿部⑧、有坂⑧、鈴木⑧、松村⑧、西出⑫

雪は多少残っていたが、風もなく、寒くもなく、間伐体験には絶好の冬の晴れた日。

「やませみ」に前泊していた小学生と9時に合流し、全体説明の後、大日野原地区に移動し、10班に分かれ約30年生のスギ・ヒノキの間伐。太さはさほどではないが、樹

高はかなりあり、他の班の作業に目を向けながら各班、間伐、枝払い、コースター作りを行う。大日野原までの傾斜のある山道で怖がって先生に手を引いてもらった子ども、この頃には元気一杯。伐った木が、狙った方向に倒れたときに挙がる歓声や、慣れない手つきながらも、自分のコースター作りに一心不乱に鋸を動かす子らを見ると、この活動にインストラクターとして参加した喜びを感じる。

班毎の昼食でも、いろんな質問が出てくる。「森」と「林」はどう違うの？という質問も出たが、どうもこれは他の班でも出たようなので、あらかじめ準備した質問なのか。意外と子供たちの関心を引いたのが、我々はプロの林業家ではなく、元々は様々な職についていて、これはボランティアなのだよ、という話。何で、こういう活動に参加したのか、子供達には不思議で興味があるようだった。

(記 阿部 純一 8期)



#### ◆ 神奈川県森林協会「林道てくてく」

日 2月20日(金) 9:00~15:15、曇り

場 寄～やどりき水源林～三廻部林道～寄

参 参加者 25名(参加申込43名)

森 小笹様、浅野目様、他3名、県西総合C1名

イ L内野⑨、武者⑦、篠原⑨、古舘⑬

各班5名~7名の4班編成。早春の寄バス停をスタートし、旧道の農業・防火用水の流れを遡るようにやどりき水源林に向う。針葉樹の濃い緑と木々の芽吹き前の淡い色の山々が美しい。観察ポイント以外は、「てくてく」歩くつもりが春を見つけては、あれや、これやと話したくなる。にわかには暗くなり雨がポツリ、ポツリ。雨山が目の前に見えている。やどりき水源林の広場で昼食。集会棟の軒下に陣取り和やかな時間を過ごす。雨も止み、午後は昨年大雪の影響で歩けなかった三廻部林道を淡々と歩く。治山工事を施した沢や、最近枝打ちしたばかりの現場は、今回の大事な説明ポイントだ。他にもいろいろ観察できて飽きなかったから長い林道も短く感じられた。三廻部林道分岐から作業路を寄の集落に向う。途中鉄塔の下で大山・丹沢表尾根縦走路の山々を眺める。起伏の稜線が神奈川の山の急峻さを感じさせる。木の根や滑る落ち葉に注意を喚起し、シカ柵のある林内の作業路を下る。視界が急に開けて茶畑に出ると、誰ともなく思わず声上がる。ロウバイ園入口までは少し遠回りになるが簡易舗

装された道を辿る。のどかな山村風景が懐かしい思い出に重なったのか参加者から故郷の話が聞かれた。「土佐原のしだれ桜の頃にまた来たい」とも。ロウバイの甘い香りに包まれて、まとめの会をして解散。参加者の笑顔が嬉しかった。

(記 内野 ミドリ 9期)

#### ◆ 鈴和会 (株式会社鈴廣蒲鉾本店)

##### 「自然観察&森林間伐体験」

**日** 2月25日(水) 9:30~14:00、曇り  
**場** やどりき水源林 恵水の森(鈴廣蒲鉾パートナー林)  
**参** 鈴廣蒲鉾社員 鈴木様他12名(男性6名・女性7名)  
**県** 自環保水源の森林推進課 増田様  
**イ** L小沢⑨、村井⑨

社員間の親睦の為、やどりき水源林パートナー林で今年も自然観察&間伐体験を行った。

8時半前には選木し、用具も揃え万全な体制で待つ。ヤル気満々の若い皆さんはやはり

予定より早く到着。集会棟前広場でリーダー挨拶、インストラクター紹介、増田様から

森林再生パートナーの紹介があり、まずは倉庫へここではストレッチ、用具を装着し

自然観察しながら現場へ出発。枕状溶岩観察で丹沢の生い立ち、この木何の木、癒しの森、後沢では水生生物の話、カニの出産、山の祠神事や間伐材利用の鳥居、1万円札の原料ミツマタ(小田原の造幣局の庭にはミツマタが植えていると教えて頂きました)

水棚堰堤の手前から登山道に入ります。看板の前で記念撮影。右手が「恵水の森」でヒノキ、杉の混交林、傾斜もなく快適。若者集団は力強くヒヤリハットもなくヒノキ45年生を2本伐倒して体験は終わる。昼はお弁当を提供して頂き女子社員に囲まれて楽しい会話に花を咲かせました。午後はムササビの巣穴観察や鹿の痕跡観察、10月桜観察、橋の上から寄沢上部の鍋割峠から鍋割山の稜線紹介、リーダーから「県民ボラ」「森の案内人」の参加呼びかけ、私は3月22日の「森へ行こう」の案内をして14時お開きになりました。

(記 村井 正孝 9期)

#### ◆ シイタケ作り教室<神奈川県公園協会>

**日** 2月28日(土) 9:30~12:30、晴れ  
**場** 県立塔の山緑地公園パークセンター  
**参** 大人20名(男12名、女8名)  
**スタッフ** 斉藤園長、石井様、那須様  
 (公財 神奈川県公園協会職員)

**イ** 高橋③

事前の打ち合わせ通り、前段の役30分は多目的ホールで用意してあるレジメ「シイタケのホダ木作り」を使い、以下の如き内容の講義と質疑応答を行った。

・①自然界での分解者としての役割 ②ホダ木作りの手法、そして③作成したホダ木の保全や管理のやり方や注意点等。後段は屋外の広場にブルーシートを敷き、主催者の用意した原木(径、約10cm、長さ1mのクヌギ又はコナラ)、ストップ付き電気ドリル、鉄パイプ製の馬、木製小槌、そしてコマ(菌種駒)を用いて、私が先ずデモンストレーションの穴あけ、コマ打ち(食菌)を行った。電ドルは2丁、馬は2脚しか用意されてなかった為、参加者を10人ずつ2班に分け、参加者全員が1本ずつホダ木を作りそれを持ち帰って貰った。

参加者20名中18名がホダ木を作り初体験であったが、怪我や事故も無く終了する事が出来て良かった。尚、事前の打ち合わせの折りに、ホダ木作りの講義と実習だけでは時間が余る事が想定されていた為、私の提案でマテバシイのドングリを使って研きドングリのブローチやペンダントを多目的ホールの中で作り方を指導し、世界でただ一個の作品を持ち帰って貰った。

(所感) 行事終了後、アンケートの回答はほぼ全員が満足以上であった。今回は無料参加であった点を割り引いても成功だったと思う。その理由はアンケート中に複数の「有料でも良いからまた開催して欲しい」との回答があったからである。

(記 高橋 恒通 3期)

#### 投稿概略フォーマットと略語の説明

ページレイアウトは気にされずベタ書きで結構です。

#### ◆ 活動団体・活動名 等

**日** 日付 (できれば時間と天気も)  
**場** 場所  
**参** 参加者  
**県** (神奈川県自然環境保全センター・水源の森林推進課)  
**財** ((公財)かながわトラストみどり財団)、**看** 看護師  
**スタッフ** 例 小田原市森林組合 X X様  
 例 川崎市公園緑地協会・X X様

**イ** インストラクター (○数字:期) **研**: 研修枠  
 (以下本文を概ね**400字を目安**として執筆ください)  
 リーダーは責任を持って執筆者の選択をお願いします。  
 \*\*活動終了後の速やかな投稿をお願いいたします。\*\*

#### ニュースレター「しずくちゃん便り」

ホームページは下記URLで見ることができます。

かながわの水環境の  
 保全・再生をめざして



<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f7006/p23426.html>

## やどりき水源林 ミニガイド

### 3月のトピックス

いよいよ活動開始！！

平成27年度やどりき水源林活動説明会



(3/15 集会棟前広場にて)

### 4月の水源林

春です。草花、樹木、動物、鳥たちが一斉に活動開始です。

最高の季節が到来です。

#### 「森の案内人」情報

“3月から案内人が始まっています”

●実施時間：毎週土曜・日曜・

AM10時・PM1時、1～2時間程度

●集 合：水源林入口ゲート前

●内 容：森林インストラクターが自然観察にご案内します。森林のしくみ手入れなどについて説明致します。

参加自由、参加費無料

\*10人以上の団体は事前に下記までご連絡ください。

●問合せ：(公財)かながわトラスト

みどり財団 TEL：045-412-2255

FAX：045-412-2300

●ホームページ：<http://www.ktm.or.jp>

●E-mail：[midori@ktm.or.jp](mailto:midori@ktm.or.jp)

#### ●やどりき水源林までの道順

小田急線新松田駅または JR 御殿場線松田駅下車、富士急湘南バス「寄(やどりき)」行き乗車約 25 分。バス下車後(案内板あり)川沿いに徒歩 35～40 分。

寄大橋の右横が水源林ゲートです。

## イベント情報 & ご案内

### 『城山かたくりの里』



開園期間：3/14～4/22 まで

概要：個人所有の山林ですが、カタクリの咲く春のみ一般公開されています。

手入れの行き届いたカタクリは、つましくも艶やかに、冬の明けた春先を優しく彩ります。珍しいキバナカタクリと白いカタクリの花も見ることができます。

臨時のバスも出ているそうです。

所在地：相模原市緑区川尻 4307(城山かたくりの里) ホームページ(外部)

<http://katakurininosato.com/katakurino/li/home.html>

### ◇ 森のなかま原稿募集 ◇

会員・購読の皆様からの原稿を募集しています。

<広報全般についてのお問い合わせ>

松本 保

Mail：[matsutamo@jcom.home.ne.jp](mailto:matsutamo@jcom.home.ne.jp)

Tel：090-7962-3168

<電子配信担当> 赤崎 さほり

〒221-0865

横浜市神奈川区片倉 2-1-50

Tel：090-6150-6173

Mail：[s.akasaki-k\\_instructor@live.jp](mailto:s.akasaki-k_instructor@live.jp)

<メール・手書き原稿送り先>

【本誌】松本 保

〒246-0037

横浜市瀬谷区橋戸 3-46-17

Fax：045-301-9401

電話連絡先：090-7962-3168

Mail：[matsutamo@jcom.home.ne.jp](mailto:matsutamo@jcom.home.ne.jp)

【別冊】水口 俊則

〒250-0871

小田原市下堀 123

Tel/Fax：0465-42-7240

Mail：[minagold109@kj.biglobe.ne.jp](mailto:minagold109@kj.biglobe.ne.jp)

【CCで】竹島 明

〒238-0045

横須賀市東逸見町 3-7

Tel/Fax：046-825-9281

Mail：[2nahemi0818@kce.biglobe.ne.jp](mailto:2nahemi0818@kce.biglobe.ne.jp)

原稿は随時受け付けています。

森のなかまは HP で過去号もご覧になれます。

<http://www.forest-kanagawa.jp/3kikoku.html#kikoku01>

(HP 担当：井出恒夫)

### 編集後記

★末娘が保育園を無事修了しました。12年間の送迎生活は長いようで短く、まだ実感がありません。

(赤崎)

★蕾の開いた蔦の蔓が美味な「蔦味噌」になりました。

食卓には家族の笑顔がいっぱい！！

(小川)

★里山にはこぶしの白い花が今真っ盛りである。5年前にヤビツの柔一輝(11期)の森に植えたコブシも今年は咲いてくれるかな～

(徳岡)

★意外と花粉症の症状も軽く、森の芽生えを間近に見ることができ力をもらえました。頑張るぞ！！

(水口)

★癌の早期発見が期待できそうです。体長1ミリの線虫に人間の尿の臭いを嗅がせ、その反応から高い精度で癌の有無を判定できることを突き止めたそうです。ヤマビルあの検知能力も何かに利用できませんかね。

(松本)

●鈴木朗さん⑨、川又暖子さん(旧姓加藤)⑩が広報部より去ります。長い間ありがとうございました。

### ◇ 年間購読のお申し込み

「森のなかま」年間購読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込み下さい。

郵便振替口座 00230-0-2454

かながわ森林インストラクターの会宛まで購読料年2000円をお振込み下さい。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記して下さい。

振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。

(頒 価 200円 送料共)

編集人：松本 保

事務局：竹島 明

広報部：小沢章男 水口俊則

徳岡達郎 大塚晴子 赤崎さほり

小池 哉 小川和恵 藪田栄哉

支援：

伊藤恭造 川森健司

寄地区のしだれ桜は樹齢が150年等、とても長く、立派なしだれ桜が多いのは有名ではありますが、その他の寄の土手のしだれ桜や、最明寺史跡公園内の、池のまわりの花々や木もとても大きく成長してきているため、とても見ごたえのある桜、場所になってきております。

<http://www1a.biglobe.ne.jp/matsuda-kanko/2011y-sakurakaika.htm>

松田地区 ・最明寺史跡公園

寄地区

・土佐原(岡部邸)しだれ桜

・萱沼しだれ桜

・中山しだれ桜

・中津川(大寺橋もと)宇津茂しだれ桜

・虫沢しだれ桜

・中津川沿い しだれ桜

・管理センター駐車場

・ドックラン・養魚組合前